



55号の主な内容

- 世界ハビタットデーワークショップ
- 環境技術専門家国際会議
- 第12回アジア都市ジャーナリスト会議
- ハートフルフェスタ
- 地球市民どんたく

第 **55** 号
<http://cnhf.web.fc2.com>

■世界ハビタットデーワークショップ

10月1日 17時より、アクロス福岡3階「こくさいひろば」で、第46回ハビタットひろばとして、「世界ハビタット・デー2018ワークショップ」が開催されました。テーマは、「Municipal Solid Waste Management」～ごみ問題について私たちができること～でした。

最初に、国連ハビタット福岡本部の是澤本部長よりご挨拶があり、続いて、株式会社 YOU! の社長である原田唯さんをファシリテーターとして、世界的な課題である持続可能な開発目標 (SDG's) についてゲーム感覚で触れるカードゲームが行われました。



休憩後、ごみ問題について、循環生活研究所のたいら由以子さんから、事例紹介があり、生活の中でごみ問題の解決のためにできることは何かがあるかを考え、その取り組みが、ごみ問題の解決以外によりよい効果につながるかどうかをみんなで考えました。(牟田慎一郎)



■環境技術専門家国際会議

11月27日と28日の2日に亘って、博多エクセルホテル東急に、アジア4か国からの専門家と日本の行政や企業の担当者が集い活発な意見交換が行われました。

基調講演として、福岡大学の松藤名誉教授より、ごみ処理に関する「福岡方式」について、1975年に福岡市で実用化されたこと、1988年から海外展開をしてきたことなどの説明がありました。

続いて、アフガニスタン、インドネシア、ミャンマー、ネパールよりごみ収集についての現状報告がありました。

休憩のあと、福岡市よりごみ分別や夜間収集、3Rの活動などについての説明があり、続いて2つの企業からごみ処理についての事例紹介がありました。



午後は、市内廃棄物施設の視察が行われました。夕刻には、同ホテルのレストランでレセプションがあり、出席者同士の懇親が深められました。



SDG'sとは、Sustainable Development Goalsの略で、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標で開発途上国だけでなく先進国も、働きがいや経済成長までも踏まえたもので、No one will be left behind を基本として、世界的な拡がりを見せています。



市民の会からは、牟田とVietnamのDuyenさんが参加し、初めて接するSDG'sカードゲームに戸惑いながらも楽しみました。環境と経済発展のバランスの重要性を感じました。





翌 28 日には、SDG パートナーズの田瀬和夫氏による SDG 's をどう戦略的に利用していくかの基調講演があり、休憩後、企業や行政などから SDG 's の取り組み事例が報告されました。活発な質疑応答が行われ、有意義な会議となりました。(牟田慎一郎)



■第12回アジア都市ジャーナリスト会議

11 月 28 日第 12 回アジア都市ジャーナリスト会議が行われました。この会議は国連ハビタット福岡本部がアジアにおける都市問題や将来直面する課題についてジャーナリストがどのような役割を果たすことができるかについて考える会議です。

今年で 12 回目となる今会議では特に「廃棄物処理と SDGs のローカライズの現状」に焦点を当て福岡都市圏の取り組みを参考事例としながら環境に配慮し住み続けられるまちづくりのための都市開発について活発な討論がされました。

会議冒頭では是澤本部長より開催挨拶があり、次いで日本を含むアジア 7ヶ国の各国記者による廃棄物に関する発表がありました。

中国・上海日報の万里新氏からは「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」等の分別を 4 つから 2 つに分かり易くしたことにより街の浄化効果のあった上海の事例を挙げられました。

インド Mint 紙アジャイ・ラドハクリシュナン氏からはインド政府の「クリーン・インド」キャンペーンの事例が挙げられましたが、同国特有のカースト制度が地方では強く根付いており、ゴミを扱う限られた階層への差別意識やそうでない別の階層の無関心等によりうまくいっていない部分があるとの指摘もありました。

インドネシア・Kompas 紙アルヤ・マルティアール氏からはペットボトルとバス乗車券を交換するスロバヤ市の取り組み、

日本・西日本新聞 藤崎真二氏からは福岡市が取り組むサーマルリサイクルの紹介がありました。

韓国・ソウル新聞の李鍾洛氏からは家庭ゴミ・プラスチックゴミを再利用・再資源化する工場のスライド紹介があり、ラオス・The Vientiane Times 紙ファイシソン・チャンダラ氏からは廃棄物処理のノウハウは浸透していないものの JICA との共同啓発している状況を、ネパール・ImageChannel のジャグディッシュ・カレル氏からは国として政治安定期を迎えてきており、関連法整備が進みつつある現状の報告がありました。

まとめとしてジャーナリズムの使命としては環境破壊に繋がる使い捨て消費社会に対する警告、国のクリーン・キャンペーンのチェック機能、

特に若年層への意識付けが重要であり、時には共同で意識喚起し役割を果たしていくことの大切さが確認されました。(T.Y)

■ハートフルフェスタ

11 月 9 日～11 日「ハートフルフェスタ福岡 2018」が行われ、あいのり一階ロビーにて開催された交流ブースにて出展を行いました。

ブースに来た参加者には国旗ゲームを通して、世界の国々を知る機会を作り、日本だけでなく世界に向けての人権の意識を芽生えさせる働きかけを行いました。

前年度とは開催場所も環境も異なりましたが、参加者一人一人趣旨をしっかりと伝えることが出来ました(N.M)



■地球市民どんたく

11 月 18 日国際協カフェスタ「地球市民どんたく 2018」が開催されました。今年のテーマは「SDGs」ということで、私たち市民の会は(目標の 11 である「住み続けられるまちづくりを」から)世界の居住問題について関心を持ってもらうことを一つの課題解決と考え、国旗ゲームを通じて参加者に提案してまいりました。

今回は 100 名以上の参加者がありハビタットの存在を多くの市民に広めると同時に、SDGs について関心を持ってもらういい機会になりました。(N.M)



事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：

〒838-0134 小郡市下西鰐坂1493 牟田慎一郎宛

お問い合わせは：

TEL：090-6770-2481(牟田)

FAX：0942-41-2080

E-mail：muta@ktarn.or.jp

Facebook：ハビタット福岡市民の会

HP：<http://habitat-citizensnet.org/>

